

中学校・高校の先生方におすすめ !!

「同和・人権学習」の出前授業を始めました

〈出前授業の特徴〉

- ◆参加体験型の感性に迫る「同和・人権学習」の出前授業を行います。
- ◆従来取り組まれてきた同和問題学習の重苦しい、モノクロの世界観から脱し、色彩ある雰囲気の中で生徒たちが生き生きと活動し、いつの間にかひきつけられて、自分を見つめる授業です。
- ◆歴史的なことを“教える”授業ではありません。史実に基づいて被差別民衆の生き様を学びます。
- ◆生徒自身が当事者として、自身の心の中に潜む“差別性”に気付いていく授業です。
- ◆ナンセンスなことに気付き、ナンセンスだと言える心を育みます。

〈授業内容の一例〉

- 同和問題の現状を知る授業
- 『しろくま式鬼ごっこ』による“いじめ”や“差別”の構造に気付く授業
- 『被害者は誰だ』を導入にして“識字問題”に迫る授業
- 校則を手掛かりに“汚染め一揆”をテーマにした授業
- その他、相談に応じて希望されるテーマで出前授業を行います。

〈指導案作成のお手伝いも行います〉

同和・人権学習の指導案を作るのは大変です。

若年層の先生方が多くなる中、同和・人権教育の継承が難しくなっているという声をよく耳にします。「同和・人権学習」の経験がない先生方も増えているという現状もあるようです。指導案作成もどこから手を付けたらいいかわからないという先生が増えているのも事実です。そんなお困りを少しでも軽減するために、同和・人権学習指導案作成に特化した研修もお引き受けします。

お気軽にお問い合わせください。

A 高校1年生(130人対象 / 90分)の授業の様子



出前授業の生徒の感想

自分の中にある差別に気がつけたと思います。全員で実践したことで自分がとっていた行動や発言がいじめのときに出ると思うととても怖かったです。もう一度自分の行動を見直すべきだと改めて感じました。

少し変わった人権学習で新鮮だと思えた。今までのどの人権学習のなかで一番印象に残り、学べたと考えている。しろくま式鬼ごっこでも前に立っていた人の気持ちも分かりましたし、自分がそれに対してどう思うのかがよくわかった。川端さんに感謝しています。

差別はいけないことだと誰もがわかっていることだけど、誰にでも起こりうることだということ学んだ。実際に自分もしろくま式鬼ごっこで鬼じゃないと分かった時、安心したし、自分が鬼じゃなければ誰がなってもいいと思っている部分があった。今日の人権学習を通して、正しく知り、おかしいことはきちんとおかしいと言えるような人になろうと改めて思った。

今まで聞いたことのある人権学習はただ差別はいけないなど長々と言われただけでしたが川端さんはゲームや過去の本当にあった体験談を通して学べたので本当に貴重なお話だった。差別やいじめについて考えることが180%変わった。しろくま式鬼ごっこは自分の感情、友達について考えたりすることができて面白い学習法だと思う。

差別がとても悪いことだと小中高と教えられてきましたが、今日の人権学習であったしろくま式鬼ごっこのように実際に経験、視覚化して初めて知ったこともありました。選ばれるか選ばれないかとドキドキしていたのも事実です。このようなことをしたことでより理解が深まりました。